

取扱説明書



背負動力散布機

1キ剤
対応

GD 6000

ご使用前に必ずお読みください
まずはじめに ▲ 安全に作業するためにをお読みください

はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの冊子をご活用ください。

また、お読みになったあと必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。なお、より良い製品をご提供するために製品と本書の内容が一部異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

本製品についてお気づきの点がございましたら最寄りの取扱店、または当社問合せ先にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄りの取扱店、または当社問合せ先にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

■使用目的について

本製品は、水田、畑、果樹園、牧場等における散布作業を目的とした製品です。この使用目的範囲を逸脱しての使用が原因での事故、許可なく改造及び分解を行い、それに伴って生じた事故に関しては、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■国際単位について

本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値を良く読んでご理解の上で使用ください。

換 算 表

量	新計量法対応表示	換 算	従来の表示	備考
面 積	[m ²] (平方メートル)	10000 [m ²] = 1 [ha] = 100 [a] = 10 反歩 = 3000 坪	[a] (アール)、[ha] (ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※ ①
回 転 速 度	[rpm] (回毎分) [min ⁻¹] (毎分)	1 [min ⁻¹] = 1 [rpm]	[rpm]	
力	[N] (ニュートン)	9.8 [N] = 1 [kgf]	[kgf] (重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m] (ニュートンメートル)	9.8 [N・m] = 1 [kgf・m]	[kgf・m]	
圧 力	[Pa] (パスカル) [N/m ²] (ニュートン毎平方メートル)	0.98 [MPa] = 10 [kgf/cm ²] 9.8 [Pa] = 1 [mmHg]	[kgf/cm ²] [mmHg]	
効 率・動 力	[W] (ワット)	735.5 [W] = 1 [PS] 9.8 [W] = 1 [kgf・m/s]	[PS] [kgf・m/s]	

※ 注意事項

①土地面積については、[a]、[ha] を使用することがあります。

■注意事項について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

- ⚠ **危険** …もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるもの。
- ⚠ **警告** …その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。
- ⚠ **注意** …その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意** …その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。

■本製品を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある ⚠ (安全注意マーク) 印の付いている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。親切心が仇にならないように機械と一緒に取扱説明書、安全作業について、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。

とくに禁止事項については念を入れて説明してください。

家族の方にも同じことです。

自分が使用するつもりで！



	ページ
1.  安全に作業するために	2
作業前の注意	2
ご使用する時の注意（薬剤）	4
（作業中）	5
（本機取扱い）	6
ご使用後の注意	7
（ポジティブリスト制度について）	7
2. 各部のなまえと操作部のはたらき	8
標準付属品のご確認	8
各部のなまえ	9
操作部のはたらき	10
 警告ラベル	11
付属品の組立	12
3. 取扱い及び操作のしかた	13
組立（噴管の組立）	13
新流し多口噴頭の組立	14
始業前点検	15
シャッタのセッティング	15
混合燃料の給油	16
エンジンの始動	17
薬剤の補給と散布開始	18
散布終了とエンジン停止	19
散布計画	20
吐出量グラフ（目安）	21
各噴頭の散布幅	22
吐出量の算出方法と肥料散布	23
散布例	24
4. 清掃・整備・格納について	25
薬剤タンク清掃	25
各部の清掃	26
整備と格納	28
故障診断とその処置	29
5. サービスについて	31
保証について	31
アフターサービスについて	31
補修部品の供給年限について	31
オプション（別売）／消耗品一覧	32
6. 仕様	33
仕様一覧表	33
標準付属品	33

1. ⚠️ 安全に作業するために 作業前の注意

■ご使用前に本体に貼付されているラベルの注意書きを必ずご確認ください、お読みいただき安全で正しい取り扱い方法を体得してください。

安全に関するご注意

ここに書かれていることはほんの一例です。「ヒヤリ」体験を起こさないためには、作業と危険はいつも隣り合せであることを忘れないでください。

こんな人は散布作業をしてはいけません

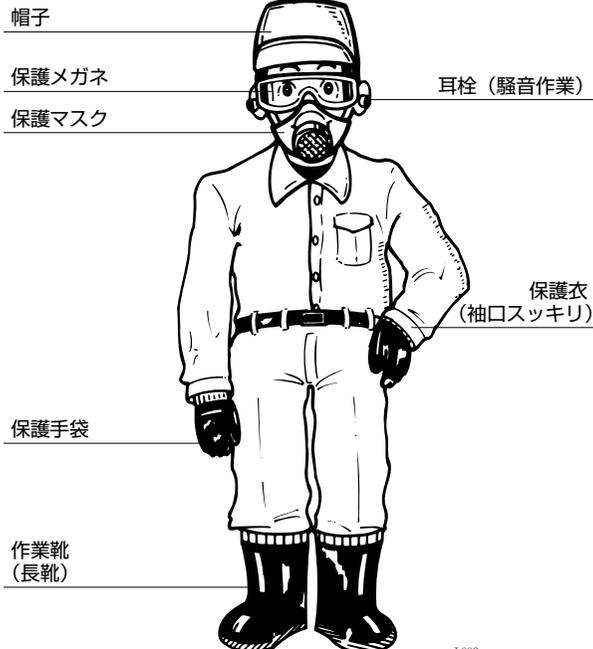
- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 負傷中の者・農薬による影響を受けやすい人
- 若年者（15才未満の人）
- 未熟練者



I-002

作業に適した服装をします

身体にあったものを
着用する散布業者



I-003



警告

保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用してください。

万一の場合の備えをしておきます

●農薬の取扱い

⚠警告

毒性の程度、応急手当法、解毒の方法を確かめておいてください。

農薬は殺虫・殺菌を目的としているので無毒ではありません。低毒性といっても体調と被曝量によっては農薬中毒症状を起こしたり、事故をひきおこす原因となります。

応急処置を知らないと！



I-005

●緊急連絡の方法を確かめておいてください。

●農業者のための労災保険などに加入しておいてください。

労災の知識をもって！



I-006

作業準備（点検・整備・運搬）のポイント

- ①自動車などによる運搬時は機械が転倒しないような処置をしてください。
- ②重量物は積み降ろしする場合は無理な体勢や単独作業はしないようにしてください。
- ③燃料の補給は、エンジンが冷えてから行いタバコなどの火気を近付けしないでください。
燃料タンクのフタは確実に締め、こぼれた燃料は、きれいに拭きとってください。
- ④各部のボルト・ナットのゆるみ、セットピンの脱落・損傷はないか確認してください。
- ⑤点検・整備などで外した回転部などのカバーは、すべて正しく取り付けてください。
- ⑥エンジンを始動するときは、可燃物の近くや換気の悪いところ、狭いところでは行わないでください。
- ⑦電気配線には、油、水、火気は厳禁です。

火気厳禁



I-012

安全カバーの取付は確実に！



I-013

換気と可燃物に注意！



I-014

ご使用する時の注意（薬剤）

薬剤の取り扱い

警告

- ① 薬剤の取扱説明書はよく読んでください。
使用する薬剤や肥料のラベルをよく読み、使用方法、使用上の注意をよく知っておいてください。
- ② 薬剤の被曝の恐れのない服装で取扱ってください。
- ③ 薬剤を必要な量だけ準備してください。
- ④ 散布する場所で調合・投入してください。
風向き・環境汚染の恐れのないところで行ってください。
- ⑤ 機械・タンクなどにあらかじめ調合して運搬しないでください。こぼれると環境汚染につながります。
- ⑥ 飲み物や食べ物と同じ場所に保管したり運搬しないでください。運搬するときは袋が切れないように気をつけてください。
- ⑦ 散布計画を立て、薬剤は残らないように調合し、本機に投入してください。
- ⑧ 残った薬剤は、だれが見ても何であるか判別できる密閉した容器・袋に入れ、他のものと隔離して無用の人が取り出せないように保管してください。
絶対に飲み物・食べ物の容器には保管しないでください。
- ⑨ 空き袋・空き缶・空き瓶は薬剤の取扱説明書または自治体の指示に従って処理してください。

危険

- 散粉、散粒ホースの中持作業はしないでください。農薬を浴び被曝することになります。

警告

- 火災の恐れがありますので引火性の強い薬剤は使用しないで下さい。

注意

- 反当散布量や薬剤の種類をまちがえると薬害をおこします。
- 薬剤タンク内に薬剤を入れて長時間放置しないでください。本機に支障を来たします。

作業は適した時期に行ないます。

- ① 風向きや圃場周囲の状況を考えて行ってください。風の強い時は、漂流飛散の恐れがあるので作業は避けてください。
- ② 作業は気温の高い時間帯を避けてください。
- ③ 身体の調子の悪い時は行なわないでください。
- ④ 散布直後の圃場には入らない様にしてください。

説明書を読まない！



I-008

服装に注意しないと！



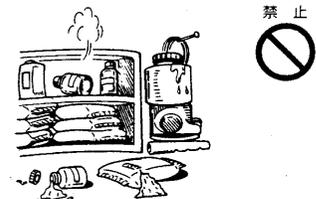
I-009

食物と一緒にしない！



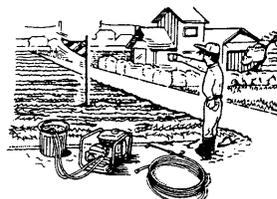
I-010

保管は区別し整理！



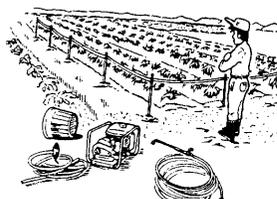
I-011

風向き、周囲を確認して！



I-020

散布直後は入らない！



I-021

作業中のポイント

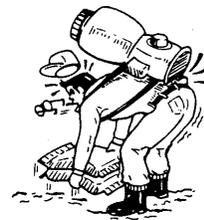
- ①通常の作業では、2時間を越えて連続作業をしないようにしてください。
- ②薬剤を入れた作業機は重量物です
圃場を整備すると共に不安定・無理な作業は避けてください。
- ③服装、圃場の条件、風向きに注意して農薬の被曝・環境汚染に注意してください。農薬の流れ漂う方向は危険です。
- ④共同作業をする場合は全員で確実な合図を決め確認しておいてください。
- ⑤燃料の補給はエンジンを止め、冷えてから燃料をこぼさないように行ってください。
- ⑥作業中は無用な人は近付けないようにしてください。
- ⑦薬剤タンクのフタは、パッキンを確認めて、薬剤の吹き出しのないように確実にしめてください。
- ⑧薬剤の吐出する噴頭の先は人に向けないでください。
- ⑨休憩や食事をするときは、うがいをしして石けんで、手や顔を洗ってください。
- ⑩体調に異常を感じたら、直ちに医師の診断を受けてください。

適度に休憩を！



I-015

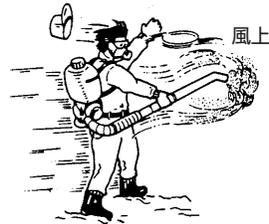
無理な作業は禁止！



禁止

I-016

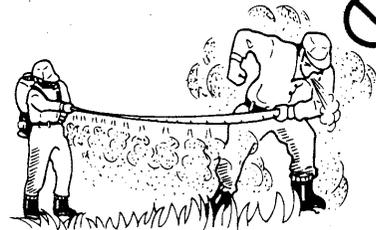
圃場・環境に注意！



禁止

I-017

共同作業は合図を決めて！



禁止

I-018

ご使用する時の注意（本機取扱い）

本機の取扱いポイント

使用目的について

- 水田・畑作・果樹・草木等の病害虫に対する粉剤・粒剤の散布。
- 水田・畑作・果樹・草木等に対する粒状肥料の散布。
- 水田・畑作・牧場等に対する種子の散布。
- 雑草に対する除草剤の散布。
- 液剤の散布〈オプション（別売）〉

自動車などによる運搬時はスロットルレバー、シャッターレバーは最下段にして機械が転倒しないような処置をしてください

エンジンについて

警告 室内では運転しないでください、一酸化炭素中毒になります。エンジンの排気ガスは吸わないように注意してください。

警告 リコイルスタータをエンジンから不用意に取り外すと、蓄力されたスプリングが一気に解放しリコイルスタータが回され危険です。リコイルスタータの取り外しは、取扱店に依頼してください。

警告 作業を中断したり、他の場所に移動したりするときは、スロットルレバーが必ず“停止位置”にあることを確認してください。

- 注意**
- 本機運転は、標準付属部品（蛇管＋自在管＋新流し多口噴頭）を装着して行ってください。薬剤タンク・付属部品等を外した状態で運転を行うとエンジン焼き付きなどのトラブルを起こします。
 - エンジンのシリンダーの四角いプレートは絶対に取り外さないでください。エンジン不調の原因になります。

- 注意**
- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー、シリンダーフィンなどに手を触れると火傷します。点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。
 - エンジンの運転中、スパークプラグにはさわらないでください。
 - エンジン始動のとき、シャッターレバーが確実に「0」の位置でシャッターが閉じていることを確認します。

混合燃料について

この製品は、ガソリンのみで使用しないでください。
使用する燃料の混合方法は16ページを必ず参照してください。

- 危険** 混合燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないでください。
- 混合燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから、行ってください。こぼした時は拭き取ってください。
 - 混合燃料補給タンクから3m以上離れて始動してください。
 - 混合比は2サイクルオイル混合比を守ってください。
 - 劣化した混合燃料は使用しないでください。エンジン始動不良等が発生します。

送風機について

- 警告** 送風機は高速回転体で大変危険です。運転中は吸入口や吐出口から手を入れないでください。
- 注意**
- 噴頭から吐出する薬剤は高速です。人に向かって吐出ししないでください。
 - 頭髮の長い人はしばったりして髪がまき込まれない様にしてください。

ご使用後の注意

- ①使用する薬剤や肥料などは、薬剤タンク内に残さないように散布してください。
- ②機械についた薬剤などはきれいに取り去ってください。発錆や故障の原因になります。
- ③保管するときは燃料は抜いてください。
- ④作業後はすぐにうがいをして、良く体を洗ってください。
- ⑤作業に使った保護具も十分に清掃し、着衣も洗濯してください。
- ⑥損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品・消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- ⑦保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。

作業後は清潔に！



I-019

機体廃棄時のお願い

本機を廃棄する場所は、最寄りの取扱い店又は当社問合せ先にお問い合わせください。

ポジティブリスト制度について

食品衛生法の農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されています。今まで残留基準値が決められていなかった農産物に一律の厳しい基準が設けられています。定められた基準を超えて農薬が残留する食品は販売等が禁止されるため、散布する薬剤が周りのほ場にドリフト（薬剤の飛散）しないよう、これまで以上に、ドリフト防止に気をつける必要があります。また、周辺ほ場へのドリフトが問題になるばかりではなく、ドリフトが周辺住民に迷惑をかけることもあります。さらに、湖沼などの水源へ混入すると環境破壊にもつながります。園外へのドリフトを減らすことは様々な面から求められています。

ポジティブリスト制度とは？

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則禁止とする制度です。この一定量とは「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量」となっています。

※ 散布しようとする作物以外に農薬がドリフトしないように細心の注意をして散布しましょう！

●農薬散布時は必ず守りましょう。

- ①風の弱い時に散布します。
- ②散布の位置や方向に注意します。
- ③適正な量を散布します。
- ④園地の端部では特に注意します。
- ⑤薬剤タンクやホースをしっかりと洗浄します。

2. 各部のなまえと操作部のはたらき

標準付属品のご確認

梱包箱を開けたら、まず付属品が揃っているかどうか、確認してください。万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにお買い求めの販売店にお申し出ください。

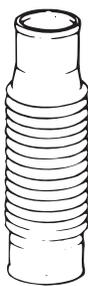
標準付属品



保証書



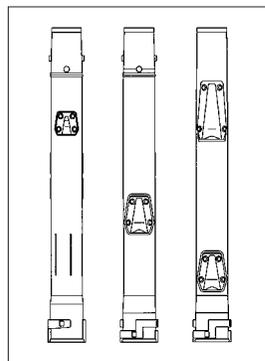
取扱説明書



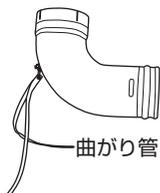
蛇管



自在管

芯管組立
(ストップリング付)

新流し多口噴頭



曲がり管



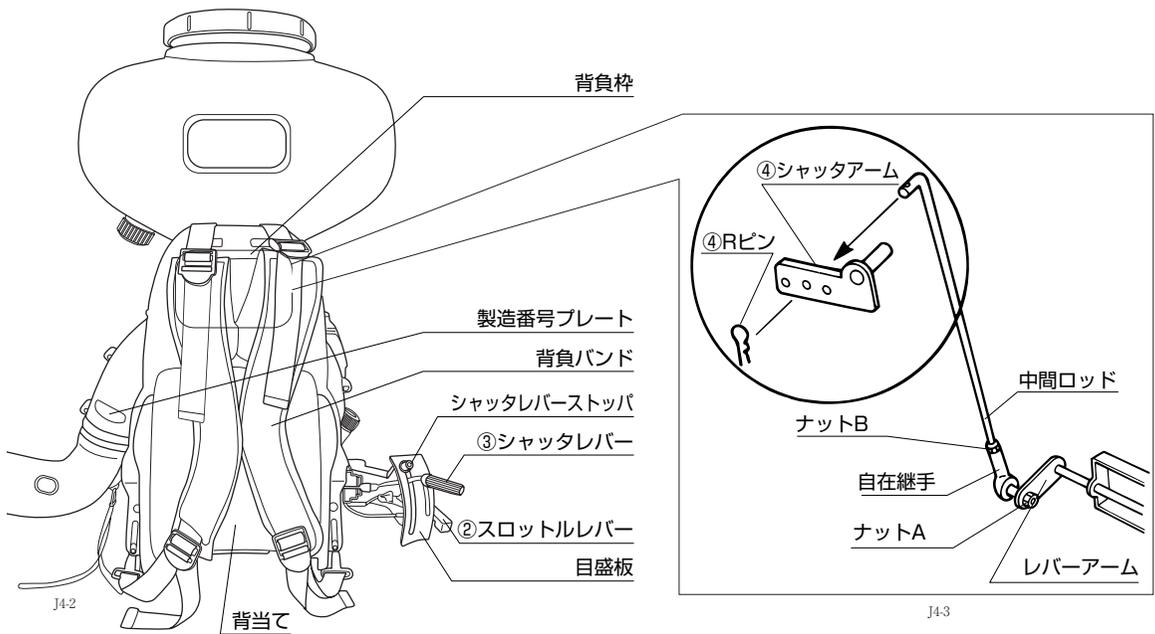
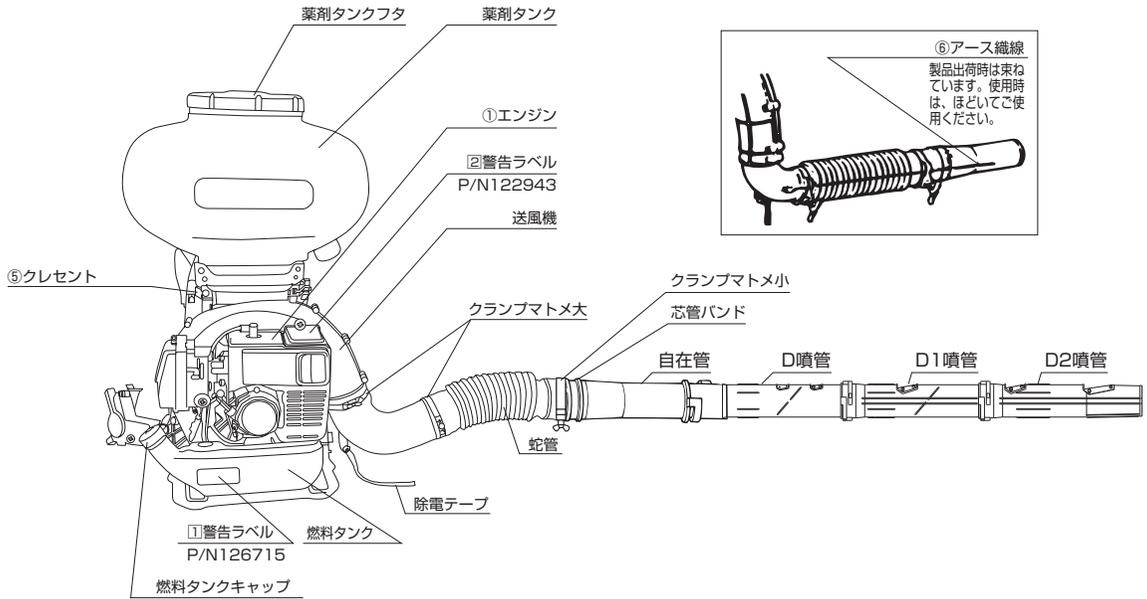
芯管バンド



クランプマツメ 小(1個)



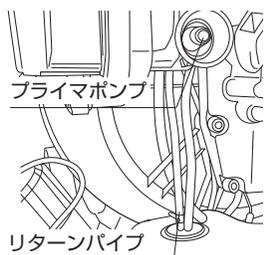
クランプマツメ 大(2個)



操作部のはたらき

①エンジン

始動時はプライマポンプを操作して、リターンパイプから燃料が戻る事確かめてからスタートさせます。



②スロットルレバー／③シャッターレバー

②スロットルレバー

スロットルレバーは軽く外側に押しながら操作し、エンジンの回転を調整します。最下段は停止位置です。最下段からスロットルレバーを引き上げ、凸を越えたところがアイドルリングの位置です。上に引き上げると高速になります。

③シャッターレバー

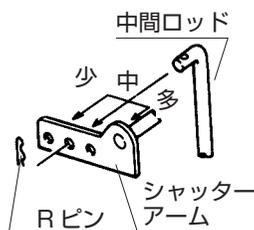
本機からの薬剤の出る量を調整します。背負った状態からだ側に引くようにして上下させます。シャッターレバーは伸縮できます。散布する時は、引き伸ばしてご使用ください。



④シャッターアーム

散布剤・散布方法により吐出量を調整するとき多・中・少を選択します。

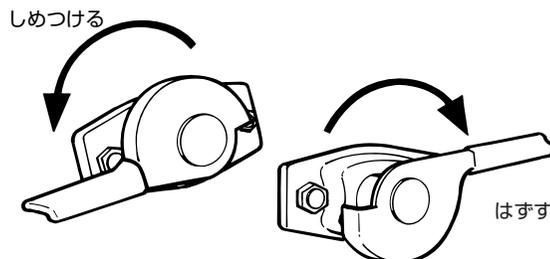
肥料 ▶ 中・多
粒状農薬 ▶ 少・中



⑤クレセント

薬剤タンクとファンケース本体をワンタッチで脱着することができます。

中間ロッドを外しクレセントをまわすと、薬剤が入ったままでもタンクを外し薬剤の回収ができます。

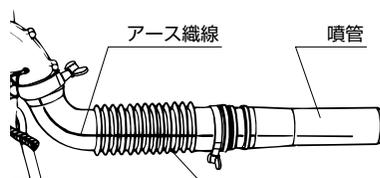


⑥帯電防止装置

- 薬剤の種類、気温、湿度などの影響により、静電気が激しく発生する場合があります。これを防止するため、本機付属の除電テープとアース織線を使用してください。
- 除電テープとアース織線は本機に組付けてありますからアース織線を蛇管と噴管の内側に通してください。

⚠ 注意

アース織線はテープ等で固定しないでください。



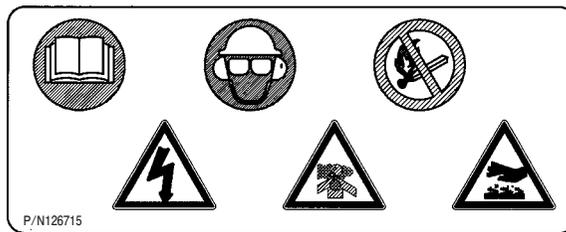
※ 本機には次の警告ラベルが貼ってあります。よくお読みになって理解した上で作業してください。

⚠ 注意

- いつも汚れや泥をとり、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しい物と交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい警告ラベルを取外した部品と同じ場所に貼ってください。

警告ラベル

①燃料タンク



⚠ 注意 取扱説明書をよく読むこと

ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること。



⚠ 注意 保護具を着用すること

作業中は帽子、安全めがね、耳栓などの保護具を着用すること。



⚠ 危険 火気厳禁

給油や整備中に火気を近づけないこと。



⚠ 警告 排気ガス注意

エンジンの排気ガスを吸入しないこと。



⚠ 注意 高温注意

エンジンのマフラ、シリンダのフィンなどは高温なので手を触れないこと。



⚠ 注意 感電注意

運転中は感電の恐れがあるため、点火プラグには手を触れないこと。

②エンジン上面

リコイル取扱注意ラベル

⚠ 警告

リコイルスタータの分解はしないでください。けがをする恐れがあります。

P/N 122943

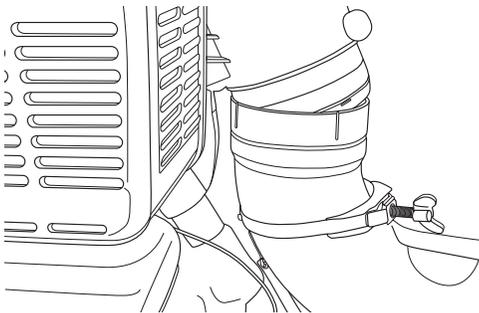
曲がり管の組立

曲がり管を本機に組み付け、本機のアースコードを曲がり管の除電テープに接続します。

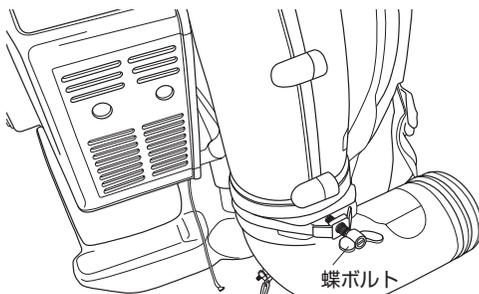
- 1** 曲がり管内で結んであるアース織線をほどいてから曲がり管を組み付けます。曲がり管切りかきのついた方にクランプマトメ大を取り付け、本体に曲がり管を組み付けます。



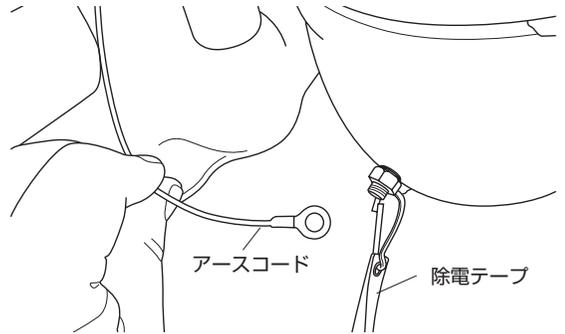
- 2** 曲がり管奥側を本機取付部奥側に引っかけ“カツン”とはまるまで手前に引きます。



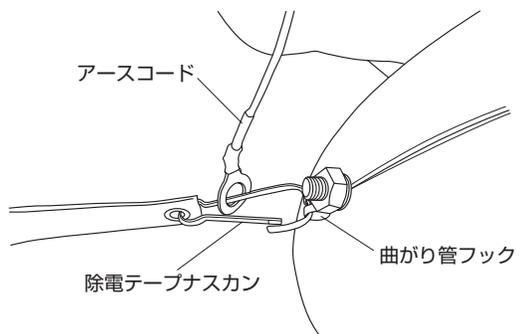
- 3** 図の位置にクランプマトメ大を締めつけます。蝶ボルトがイラストの位置になるようにしてください。



- 4** 本機アースコードを除電テープにつなぎます。



- 5** 除電テープのナスカンにアースコードのリング部を通して曲がり管のフックにつなぎます。



一度組み付けた曲がり管とアースコードは分解せず、組み付けた状態で格納してください。

3. 取扱い及び操作のしかた

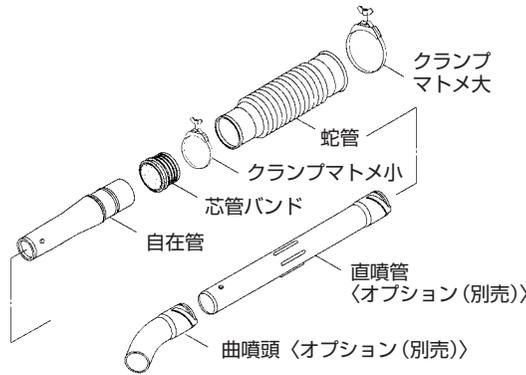
組立（噴管の組立）

注意

噴頭類（例えば新流し多口噴頭等）は、夏の暑い時期においても十分な性能を発揮することを考慮し、噴管と噴管のはめ込みのきつさを設定しています。

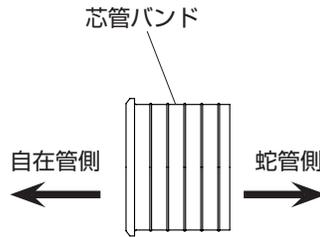
そのため、寒い時期に噴頭類を組立てる際に、はめ込みのきついものが発生する場合があります。このような時は、噴管のはめ込み部のメス側をお湯等で温めるか、またオス側に油等を塗布して噴管をはめ込んでください。

噴管の組立



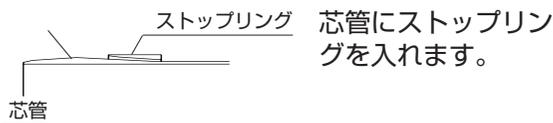
クランプマトメ大を使用して蛇管を作業機に、噴管バンドを組付けた自在管をクランプマトメ小を使用して蛇管に接続してください。噴管バンドは蛇管と自在官の接続のすき間を隠すようにかぶせてください。

〈オプション(別売)〉の直噴管、曲噴管を使用するときは、図のように自在管に接続してください。

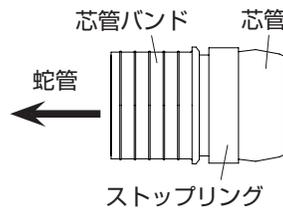


芯管バンドは向きに注意して下図のように自在管に取り付けてください。

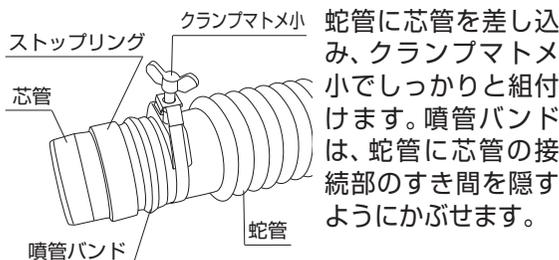
ホース〈オプション(別売)〉噴頭の組立



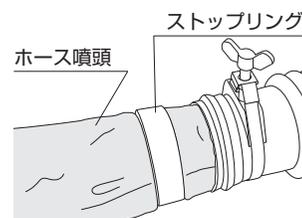
芯管にストップリングを入れます。



芯管に芯管バンドを取り付けてください。芯管バンドを取り付ける時は、向きに注意して図の様にしてください。



蛇管に芯管を差し込み、クランプマトメ小でしっかりと組付けます。噴管バンドは、蛇管に芯管の接続部のすき間を隠すようにかぶせます。



芯管とストップリングの間にホース噴頭を通します。ストップリングで、ホース噴頭が抜けないようにしっかりと固定してください。

新流し多口噴頭の組立

※ 新流し多口噴頭の吐出板は消耗品ですので摩耗したら交換してください。

吐出板の寿命は、目安として対応面積 2ha 前後（肥料散布時）です。（肥料の種類によって変動します。）
被覆肥料（LP コート肥料・セラコート肥料等）については破損等の問題が生ずる可能性がありますので、
被覆肥料を散布する場合は樹脂製の吐出板をおすすめします。

吐出板（標準付属品／樹脂製）

P/N 部品番号	部品名称	個数
118619	吐出板 B	1
118620	吐出板 C	2
118621	吐出板 D	1

吐出板〈オプション（別売）〉ステンレス製

P/N 部品番号	部品名称	個数
101124	吐出板 B	1
100304	吐出板 C	2
101377	吐出板 D	1

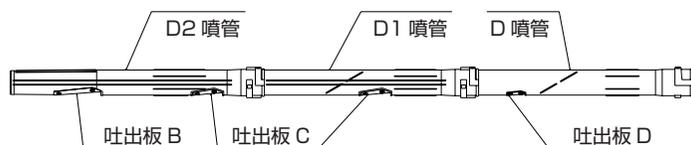
新流し多口噴頭組立要領

1. 新流し多口噴頭は、それぞれ種類の異なる 3 本の噴管と握りにより構成されています。

噴管の種類と数を確認してください。

〈D2 噴管×D1 噴管×D 噴管×握り〉

組み立てにあっては下図に示すように、先端から D2 噴管・D1 噴管・D 噴管の順番で 3 本の噴管を全部接続してください。



●新流し多口噴頭接続要領

D2 噴管と D1 噴管・D1 噴管と D 噴管の接続は従来の噴管と接続方法は異なります。

D 噴管と自在管の接続は従来の方法と同一です。

以下で D2 噴管と D1 噴管・D1 噴管と D 噴管の接続方法を説明します。

1 噴管先端（D1 噴頭・D 噴頭）に 4 つの凸部（2 対の位置相違）があり、この内先端側の 2 個の凸部を最初に相手側噴管の 2 条ネジ部に差し込み、溝に沿って 1 / 4 回転回します。

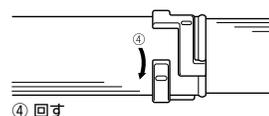
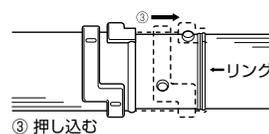
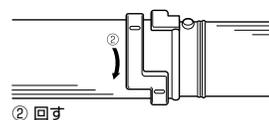
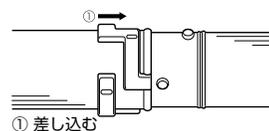
※ 最初に吐出板が反対になるようにして凸部を差し込むと組み立てた時に吐出板が同一方向となります。

2 噴管の軸方向に対して最後まで押し込みます。（この時残りの凸部が 2 条ネジ部に入り、そのあとに噴管の円周方向に形成されているリングが相手噴管に完全に入ります。）

3 最後まで押し込みましたら、さらに溝に沿って 1 / 4 回転回します。この時吐出板が同一方向に向いていることを確認します。

4 噴管同士がしっかり組み合わされているのを確認したら、組み立て完了です。

5 D2 噴管・D1 噴管を上記 1～4 と同様に組み立ててください。



始業前点検／シャッタのセッティング

始業前点検はその日の作業を始める前に行う点検をいいます。

この点検を行うことによって、故障や万一の事故を未然に防止することが出来る非常に大切な点検ですので必ず実施してください。

始業前点検

- 本機はそのまま付属品を装着するだけで散布機・散粒機として使用できます。
- 各部ネジにゆるみがないか点検します。薬剤タンク取付部にゆるみがないか点検します。

⚠ 注意

- ネジがゆるんでいると事故につながります。
- 燃料ホース、電気配線に異常がないか点検します。また、燃料ホース、電気配線については定期的に整備、交換してください。
- 背負バンドの長さを自分の体形に合わせ、調節します。
- 警告ラベルが本体からはがれた場合は購入して貼付してください。
- 背負バンドに損傷（切れやホツレ）がないか点検します。損傷があった場合、使用せずに背負バンドを交換してください。

シャッターアーム位置

散布する薬剤の種類に応じて中間ロッドの位置（多・中・少）を切替えてください。

- 1 シャッターレバーを「0」に合わせます。



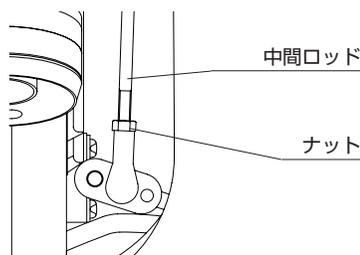
- 2 中間ロッドを下の方に従ってシャッターアームに差し込みます。

肥料 ▶ 中・多
粒状農薬 ▶ 少・中



- 3 中間ロッドの穴に R ピンを差し込みます。

※ シャッターレバーを「0」に合わせてもシャッターが全閉にならないときは、中間ロッドの高さを調節してください。



1. シャッターアームのストッパを外し、中間ロッドをシャッターアームから取り外します。
2. ナットをゆるめて、中間ロッドを回し、高さを調整してください。
3. 調整後はナットを締めて中間ロッドが回らないように固定してください。

混合燃料の給油

- 必ず混合燃料を使用します。ガソリンのみで使用しないでください。

! 危険

混合燃料は引火するおそれがあります。給油中は、たばこなどの火気は厳禁です。

オイルは 2 サイクル専用オイルを使用のこと

ガソリン	:	オイル
25~50	:	1

※JASO 性能分類 FC および FD クラスの 2 サイクル専用オイルをご使用の場合は、「50：1」で混合してください。

混合燃料の作り方

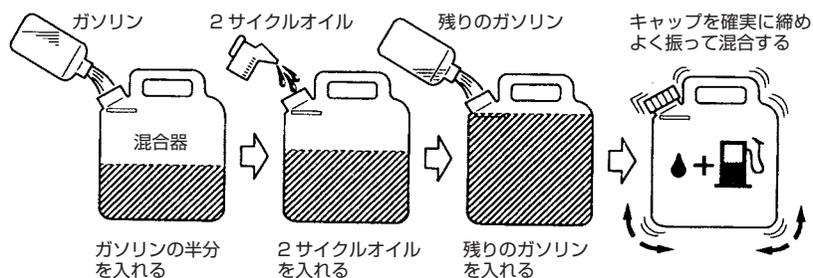
! 危険

混合器は樹脂製で静電気の発生するものは使用しないで下さい。静電気の発生で、引火する恐れがあります。

注意

本機の燃料タンクに直接ガソリンやオイルを入れて混合しないで下さい。

- ①混合器はいつもきれいにしてお使い下さい。
- ②混合器に、混合するガソリンの半分を入れて下さい。
- ③規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れて下さい。
- ④混合器のキャップを確実に締め、混合器をよく振ってガソリンとオイルを混合して下さい。



基準線以上入れないこと
エンジンを停止して給油すること
エンジンにごぼさないこと

エンジンの始動

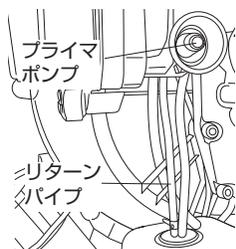
 **注意**

始動ロープの引きかた

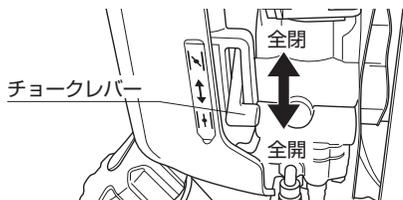
1. 始動ロープを右手で確実に握ります。
2. 左手で薬剤タンクを押えます。
3. 始動ロープは抵抗を感じるころまでゆっくり引きます。(20cm程度)
4. 一旦始動ロープを元に戻します。
5. 始動ロープはスタータの出入口とまっすぐになるように素早く引きます。
6. 始動ロープは全部引ききらないようにします。
7. 始動ロープは引張ったまま手離さないでゆっくりと元にもどします。
8. チョークレバーを全閉「N」の位置で始動ロープを5～6回引いても、エンジンの始動がない場合は、チョークレバーを全開「H」の位置にして始動ロープを5～6回素早くひいてください。

1 スロットルレバーを1～2ノッチ上へあげます。

2 プライマポンプを操作し、リターンパイプの内側に燃料が移動していることを確認します。

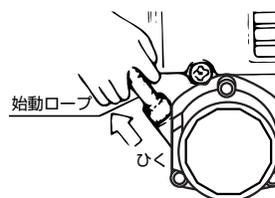


3 チョークレバーを操作します。
寒いときや、エンジンが冷えているとき全閉「N」

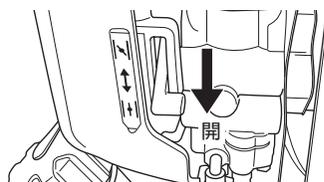


エンジンが暖まっているとき全開「H」

4 始動ロープを素早くひいて始動させます。



5 チョークレバーを全閉にした場合、エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に戻します。



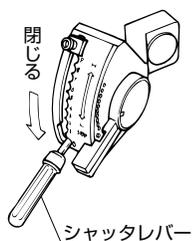
6 エンジンが始動したら、スロットルレバーをアイドル位置(最下段から、最初の凸部を越えたところ)に戻し、1～2分間低速で運転(暖機運転)し、その後作業を行ってください。始動しない場合、「故障診断とその処置」を参照してください。

薬剤の補給と散布開始

薬剤の補給

薬剤はゴミなどの異物や、固まりのないよく乾燥したものを使用します。

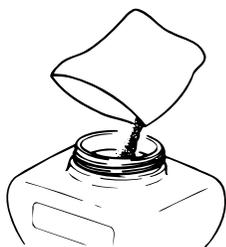
- 1 シャッターレバーを「0」に合わせます。



- 2 固まりをとりのぞき外部にこぼさないように薬剤を入れます。

薬剤を入れる時は外にこぼさない様に注意します。

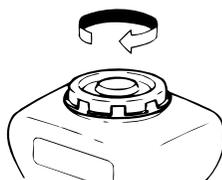
薬剤は散布しようとする必要量を入れます。



- 3 薬剤タンク蓋パッキンを確かめ確実に密閉します。

ゆるいと薬剤の吐出しに影響の出ることがあります。

また、薬剤がふき出し、あびる危険があります。



散布開始

エンジンスロットル位置は、アイドル位置におきます。

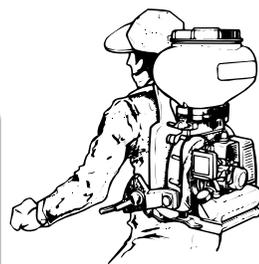
- 1 散布に必要なシャッター開度は「散布計画表(20ページ)」を参考にしてください。シャッターレバーストッパを引いて必要開度に合わせます。ストッパ位置については「散布作業の手順例(24ページ)」を参考にしてください。



- 2 本機を背負います。

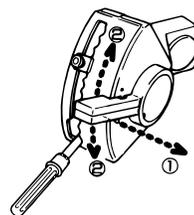
注意

薬剤を入れた本機は重量物ですので、取扱いには十分注意してください。

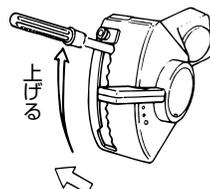


- 3 散布噴頭に合わせてスロットルレバーを操作します。

レバーは軽く外側①に押しながら②の方向に操作します。

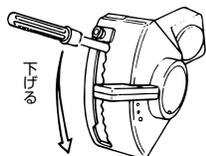


- 4 シャッターレバーを上げて散布します。シャッターレバーを軽く内側にひきながら操作します。

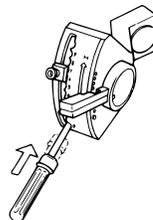


散布終了

1 シャッターレバーを下げて散布を終了します。



2 シャッターレバーの握りを押し縮めます。



エンジン停止

1 シャッターレバーを最下段にして散布を停止します。



2 シャッターを閉じた状態で、スロットルレバーを軽く外側に押しながら最下段にしてエンジンを停止します。



散布計画

- 散布作業に当っては、散布する薬剤・肥料の散布量に対応して、散布計画表を参考に、シャッター開度と歩行速度を求めて作業を行います。
- 実際に作業を行い、もし計画表の通りに散布できない場合は、シャッター開度か歩行速度を変えて調整します。
- スロットル開度は全開が主ですが薬剤の飛距離に合わせて調整します。

! 注意

散布作業を行う場合、硬質で角のある薬剤や肥料だと噴管・噴頭が削れ、損傷する場合があります。

吐出量グラフによる散布計画

- 散布計画表と異った内容の場合、21ページのグラフを用いて、次のように散布計画を立てます。
- ①たとえば歩行速度を求めるには、まず、噴頭とその散布幅を決めます。(22ページ参考)
- ②適当なシャッタ開度を設定し、それに対応する吐出量をグラフより導きます。
- ③次の式に、吐出量、散布幅、散布量の数値を当てはめ計算すると、歩行速度が求められます。

$$\text{歩行速度} \text{ (m/秒)} = 16.7 \times \frac{\text{吐出量} \text{ (kg/分)}}{\text{散布量} \text{ (10アール当り kg)} \times \text{散布幅} \text{ (m)}}$$

- この時、歩行速度は、0.3～0.6m/秒の範囲が最適となります。
- それ以外の値の時は、散布幅を調節するか、吐出量を選定し直して、0.3～0.6m/秒になるようにして散布を行ってください。

散布計画表 (目安)

粒状肥料

散布量kg (10アール当り)	噴頭	散布幅 m	吐出量 kg/分	歩行速度 m/秒	シャッタアーム 位置	シャッタ 開度
10	曲噴頭	15	3.0	0.34	少	8
	新流し多口噴頭	19	4.9	0.43	少	9
	ホース噴頭 (往復散布)	20	3.0	0.51	少	8
		30	3.0	0.34	少	8
20	曲噴頭	15	6.0	0.33	中	5
	新流し多口噴頭	19	11.0	0.48	多	4
	ホース噴頭 (往復散布)	20	6.0	0.50	中	5
		30	6.0	0.33	中	5

※ 往復散布…いきとかえりて、本機と噴頭先端の保持者の位置を入れ替えて、2度散布すること。

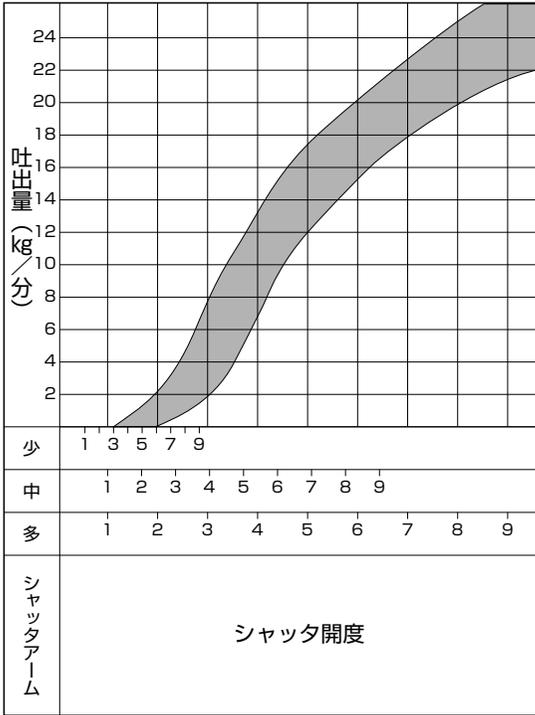
粒状農薬

散布量kg (10アール当り)	噴頭	散布幅 m	吐出量 kg/分	歩行速度 m/秒	シャッタアーム 位置	シャッタ 開度
1	曲噴頭	10	0.2	0.34	少	3
	新流し多口噴頭	15	0.4	0.45	少	4
	ホース噴頭	20	0.4	0.37	少	4
		30	0.7	0.41	少	5
		40	1.1	0.45	少	6
3	曲噴頭	10	0.6	0.34	少	4
	新流し多口噴頭	13	0.9	0.39	少	5
	ホース噴頭	20	1.5	0.42	少	6
		30	2.0	0.37	少	7
		40	2.9	0.40	少	8

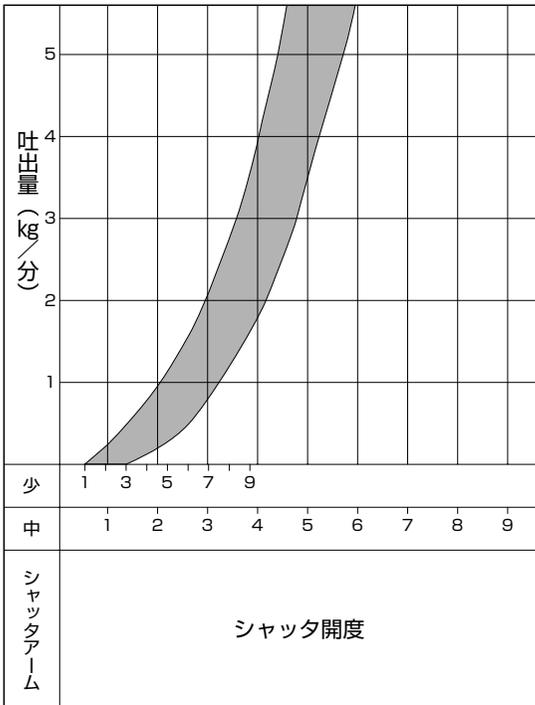
吐出量グラフ(目安)

自社試験による参考値ですので、これは目安にしてください。

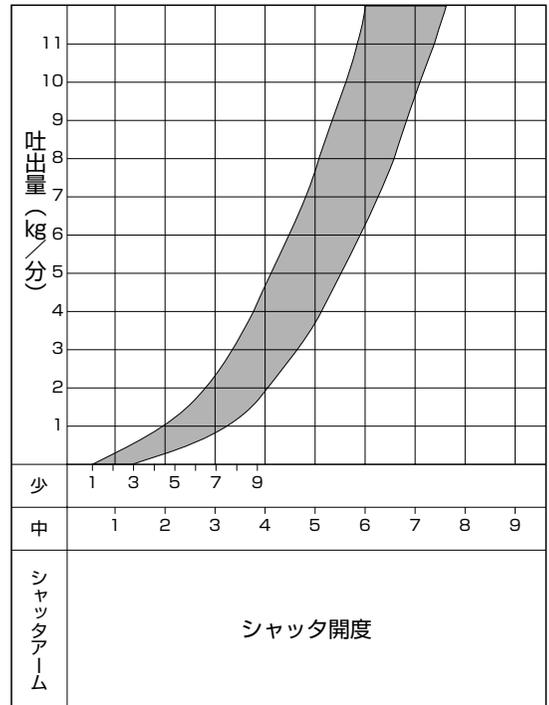
粒状肥料



粒状農薬 (1kg/10a粒剤、微粒剤)



粒状農薬 (3kg/10a除草剤含む)



各噴頭の散布幅

- 用途と噴頭により散布幅が決まります。下の表から散布幅を導き出してください。

⚠ 注意

- 散布幅は風の強さによって変化します。
- この散布幅は当社試験による無風時の参考値です。

⚠ 注意

新流し多口噴頭で被覆肥料を散布する場合、被覆肥料の破碎を防ぐ為、エンジンスロットルを3～5ノッチの位置でご使用ください。

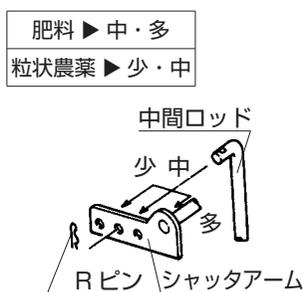
この場合、散布幅は13m程度になります。

用途	噴頭		散布幅（到達性能）m
			GD6000
粒剤、肥料の散布	曲噴頭		粒剤、肥料 10～15
粒状農薬（1kg/10a粒剤）の散布	新流し多口噴頭		13
粒状農薬の散布	ツブマキホース OH	OH20	20
		OH30	30
		OH36	36
		OH40	40
		OH50	50
	新流し多口噴頭		11～13
	ツブマキホース NHF	NHF30	30
		NHF40	40
	粒剤用 多口ホース噴頭	20	20
		30	30
粒状肥料の散布	新流し多口噴頭		19

正確な吐出量の算出法

- 湿度、薬剤の種類等により吐出量が異なる場合があります。グラフや表は目安としてお使いください。
- 正確な吐出量を求めるには次のようにしてください。

①散布する薬剤の種類に応じて、シャッターアームに中間ロッドをセットします。



- ②予定しているシャッター開度にセットして、試し散布を行います。
- ③その時に要した秒数を計測し、下の式に当てはめて計算します。

$$\text{吐出量 (kg / 分)} = \frac{\text{投入量 (kg)} \times 60}{\text{吐出に要した秒数 (秒)}}$$

- この値を用いて下の式にあてはめれば歩行速度の計算ができることになります。

$$\text{歩行速度 (m / 秒)} = \frac{16.7 \times \text{吐出量 (kg / 分)}}{\text{散布量 (kg / 10a) \times m} \times \text{散布幅}}$$

注意

- 特に1kg/10a粒剤の初回の散布には、上の内容を実施する様にしてください。
- 薬剤のまき過ぎには十分注意してください。
- 散布に当っては、散布しようとする薬剤、肥料等の注意事項を守ってください。

肥料散布についての注意

- 薬剤タンク内の肥料はできるだけ散布を中断せずに、続けて全部散布してください。
- 薬剤タンクに肥料が入っている状態でシャッターを閉じるときは徐々にシャッターレバーを下げます。
- 急にシャッターを閉じたり無理にシャッターを閉じるとシャッターに肥料がかみ込み、故障の原因となります。
- 散布中にたびたび肥料の吐出が中断するときには、つまりを取り除いた後、シャッターレバーを1段上げ歩行速度を速めます。

除草粒剤 (1kg/10a剤、3kg/10a剤) を散布する場合は、次の噴頭の使用をお奨めします。

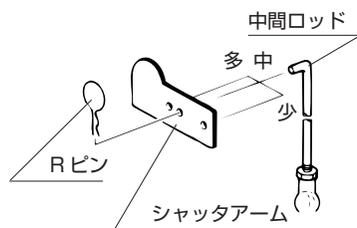
〈オプション (別売)〉

- ニューすつとび噴頭
- ツブマキホースOH (1キロ粒剤用)
- ツブマキホースNHF
- 粒剤用ホース

散布作業の手順例

新流し多口噴頭を使用して、粒状肥料を10アール当り10kg散布する場合。

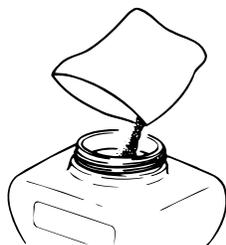
- 1** 中間ロッドの位置を「少」位置にします。



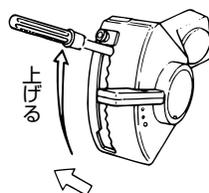
- 2** シャッターレバーストッパを「最上段」の位置（レバーが9の位置でとまる）にセットします。



- 3** 薬剤タンクに薬剤を入れる前にシャッターレバーが「0」でシャッターが閉じていることを確認します。薬剤タンクに散布する少量の肥料（約10kg）を入れます。



- 4** 本機を運転し、シャッター開度「9」の位置で毎秒40cmの速さ（10mを約25秒の速さで歩く）で散布します。



この時の粒状肥料の散布幅は約19mとしています。

10アール散布が終わって薬剤タンクが空になれば予定どおりの散布ができたことになります。

- 5** 薬剤タンクに肥料が残った場合は、歩行速度を遅らせます。また10アールの散布が終わらないうちに薬剤タンクの肥料が空になった場合はシャッター開度を1段下げるか、散布速度を速くして本散布を行います。

その他散布作業の注意

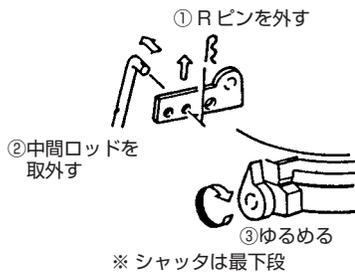
- コーティング剤・被覆肥料の散布
コーティング剤・被覆肥料散布の場合は、ニューすつとび噴頭または新流し多口噴頭を使用します。
散布幅は13mを目安にスロットル開度を3～5ノッチに調整してください。

清掃をする場合、あらかじめビニール手袋等を着用してください。

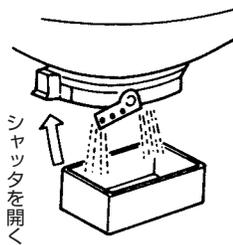
1 薬剤タンクを取外します。

注意

薬剤タンクを取り外す時は薬剤をこぼさないようにします。



2 タンクシャッタを開き、タンク内の薬剤の除去と清掃をします。



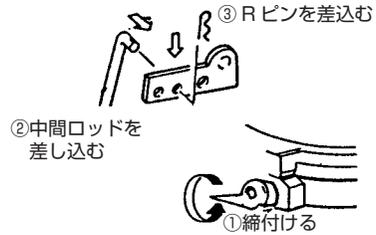
3 吐出ケースを取り出し清掃し、送風機の中を点検します。



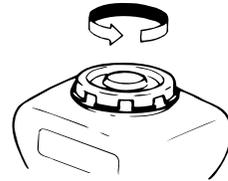
4 薬剤タンクを取付けます。

注意

締付けは交互におこない両側とも（水平より下）に止めます。

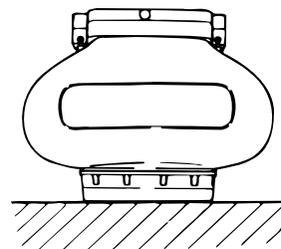


5 薬剤タンクのフタはゆるめておきます。



注意

- 肥料を散布した場合はシャッタが固着したり、金属部が腐食する場合がありますので特に念入りに清掃してください。
- 薬剤タンクを取り外し、床に置く場合は、フタを下にして置いてください。



各部の清掃

本体

- 25ページに従い、薬剤の除去、清掃を行い本体も清掃しておきます。
- シャッタ軸受部に注油し、数回シャッタレバーを上下させます。
- ネジの欠損、ゆるみを点検します。



燃料ストレーナ

火気厳禁

- 燃料ストレーナが汚れていると、始動不良や加速不良の原因になります。
- 燃料ストレーナの点検と清掃は25時間毎に行ってください。

注意

針金等で燃料ホース（黒色）を傷つけないでください。



- 針金等の先を丸め、燃料タンクの口から燃料ストレーナを引き出します。
- ストレーナが汚れている場合はストレーナを取外しガソリンまたは混合油で洗浄します。
- 汚れがひどいときは、ストレーナを交換してください。

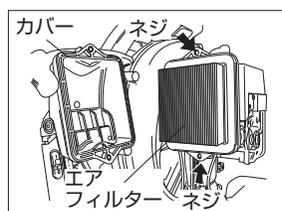
エアクリーナ

- エアクリーナ内のフィルターが粉やちりで目詰り状態になると、エンジンの出力が低下し、始動しにくくなります。
- エアクリーナの点検と清掃は20時間毎に行ってください。

注意

本製品のフィルターは「乾式」です。洗い油などで洗わないでください。

- 1 チョークレバーを全閉にします。
- 2 エアクリーナのカバーをネジを緩めて外します。
- 3 フィルターを優しくたたいてゴミを落とします。フィルターの汚れが著しい場合は新品と交換します。



背負バンドの点検整備

注意

背負バンドが損傷すると本製品の落下となり、けがを負う可能性があります。

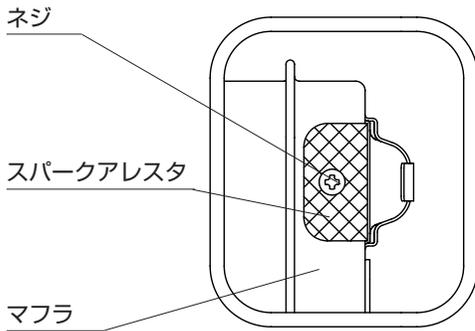
背負バンドが汚れているときは水洗いしてください。水洗い後、よく乾燥させます。乾燥後、損傷（切れやホツレ）がないか点検し、損傷している場合は背負バンドを交換してください。交換部品については、本製品のお買い上げの販売店でお買い求めください。

スパークアレスタ

- スパークアレスタにカーボンが堆積すると出力低下を起こします。
- スパークアレスタの点検と清掃は100時間運転毎に行ってください。

⚠ 注意

マフラは運転中および停止直後は高温です。火傷のおそれがあるので、マフラが冷えてから点検・清掃を行ってください。



- 1 マフラに装着されているネジを取り外してください。
- 2 スパークアレスタをやさしく引き抜いてください。
- 3 スパークアレスタをやわらかいブラシで清掃します。
- 4 清掃後はスパークアレスタを元に戻し、ネジで締めてください。

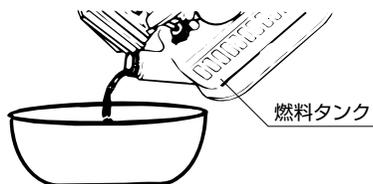
格納

- 格納するときは、次のことを厳守します。

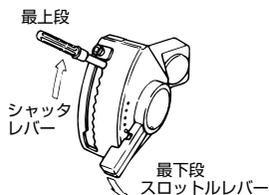
1 混合燃料を抜きとります。エンジンを始動し、アイドリングでエンジンが自然に止まるまで運転します。

注意

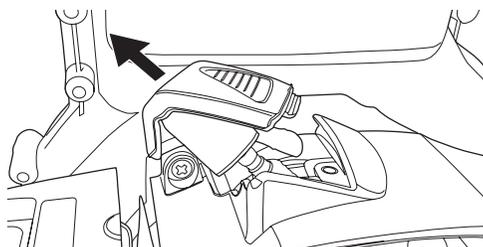
抜き取った混合燃料は金属缶に入れて保管してください。燃料タンク内に混合燃料を入れたままにしていると樹脂タンクの成分が溶け出しエンジンに悪影響を与え、故障の原因となります。



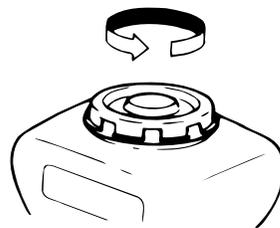
2 スロットルレバーを停止位置（最下段位置）、シャッタレバーを全開位置（最上段位置）にしておきます。



3 プラグキャップは抜いたままにしておき、エンジンが始動しないようにしておきます。



4 薬剤タンクフタはゆるめておきます。



5 以上のことを済ませたら、箱などに入れ、湿気の少ない風通しのよい場所に保管します。バンドや樹脂部品は紫外線による劣化・損傷が生じることがあります。直射日光が当たる場所には保管しないでください。

注意

- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- 保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。
- スロットルレバーは必ず最下段にしてから格納してください。

- エンジンの始動困難、調子が良くない場合は次表の内容が考えられます。
- ☆印についてはお買い上げの販売店、または当社問合せ先へお問合せください。

エンジンが始動しない

状態		原因	処置	
エンジンが始動しない		スロットルレバーが最下段になって _____ いる	スロットルレバーを1~2ノッチ上げる	
混合燃料があり点火プラグで発火しない場合	プラグキャップまでは電気が来る	混合燃料の吸い過ぎ _____ 点火プラグの間隙不良 _____ 点火プラグの絶縁不良 _____	乾かす 調整、交換 点検、清掃、交換	☆☆☆
	プラグキャップに電気が来ない	イグニッションコイルの断線又はショート	交換	☆
混合燃料があり点火プラグで発火する場合	圧縮のよい場合	混合燃料の不良 _____	正規の燃料を使用	
	圧縮の悪い場合	ガスケットの不良又は締付け不良 _____ 点火プラグの締付け不良 _____ ピストンリングの固着 _____	点検、調整、交換 締付け 点検、交換	☆☆☆
気化器に混合燃料が来ない場合		燃料タンクに混合燃料がない _____ 燃料タンク通気口のつまり _____ 気化器内部通路のつまり _____ パイプの折曲り及び外れ _____	補給 点検、清掃 点検、清掃 点検、修理、交換	☆☆☆

エンジン不調

状態		原因	処置	
力がない	圧縮も良く失火もない	エアークリーナエレメントの目づまり _____ 燃料パイプ接手などに空気が入っている _____ チョークレバーが閉(半開)になっている _____ シリンダ・マフラのカーボン堆積 _____ スパークアレスタのカーボン堆積 _____	点検、清掃 (P29参照) 除去する 点検、調整 点検、除去する 点検、清掃 (P30参照)	☆☆☆
	圧縮が悪い	点火プラグ締付不良 _____ ガスケットの不良・締付不良 _____ シリンダ、ピストンリングの摩耗 _____ シリンダ内部のキズ、ピストン頭部の亀裂 _____	点検、清掃、交換 点検、交換 点検、交換 点検、交換	☆☆☆
エンジンの過熱		混合燃料の不良、混合不充分、混合比不良 _____ カーボンの堆積、過負荷運転 _____ 点火プラグ不良 _____ シリンダ、冷却フィンにゴミのつまり _____	正規の燃料を使用 点検、除去 点検、交換 清掃	☆☆☆
爆発回転の不確実、失火する		混合燃料が少なすぎる(燃料通路のつまり) _____ 点火プラグ不良 _____ 点火コイル _____	点検、清掃 点検、交換 点検、交換	☆☆☆
エンジン不快音		シリンダのオーバーヒート _____ 回転部分の異常接触 _____ エンジンの内部損傷 _____	点検、調整 点検、調整 点検、交換	☆☆☆
迅速な加速不可能		燃料通路のつまり _____ ガソリンオイルの品質不良 _____ カーボンの堆積 _____	点検、調整 正規の燃料を使用 点検、除去	☆☆☆

- この項目は、お客様が行うことができます。
- 下記の処置をしても不調の場合は、お買い上げの販売店、または当社問合せ先へお問合せください。

本 機		
状態	原 因	処 置
粉・粒が吐出さない	シャッタのつまり	つまりを取り除く
	吐出ケース内のつまり	つまりを取り除く
	中間ロッドがはずれている	中間ロッドをシャッターアームにつなぐ
吐出量が少ない	シャッターアームの多中少の位置がちがう	適正な位置にあわせる
	粉・粒がしめっている	乾かす
	粉・粒がかたまっている	ほぐす
	薬剤タンクフタが確実にしまっていない	ギュッとしめる
	異物の混入	取り除く

保証について

保証期間、保証内容は保証書に記載されています。保証書を読んで確認してください。保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は大切に保管して下さい。

警告

機械の改造は危険ですのでしないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますのでご注意ください。

アフターサービスについて

- 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。
 - 連絡していただく内容
 - 機種名
 - 製造番号
 - 故障内容なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。
 - 本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に、点検整備をお願いしてください。この時の整備は有料となります。
- ※製造番号は、製造番号プレート（P9各部のなまえ）を見てご確認ください。

補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造を打ちきり後9年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

オプション(別売)／消耗品一覧

オプション(別売)

区分	部品名称	P/N 部品番号
散粒 1キ口 粒剤	ツブマキホース OH20	597081
	ツブマキホース OH30	597082
	ツブマキホース OH36	597086
	ツブマキホース OH40	597083
	ツブマキホース OH50	597084
散布作業	握り(新流し多口噴頭で使用)	117416
	散布ホース巻取機	997375

区分	部品名称	P/N 部品番号
散粒 1/3キ口 粒剤	ツブマキホース NHF30	599871
	ツブマキホース NHF40	599872
	粒剤用ホース 30	620636
	粒剤用ホース 40	620637
	ニューすつとび噴頭	121194

消耗品一覧

使用箇所	名称	部品番号
本機 蛇管取付部	カラー	119160
本機 蛇管取付部	ゴムバンド	119161
ファンケース エンジン側	ジョデンテーブクミタテ	101252
ファンケース エンジン側	アースオリセンマトメ	100293
薬剤タンク蓋	ヤクザイタンクフタパッキン	103194
薬剤タンク組立、シャッタ組立	パッキン	107888
シャッタ組立 軸	Oリング	022056
吐出ケース	パッキン	108016
蛇管	ジャカンマトメ	107521
本機	セオイバンドクミタテ	130114

仕様一覧表 ● この仕様は予告なしに変更することがあります。

機種名称		GD6000	
本	寸法(長×幅×高)	400×560×800 mm	
	本体質量	12.6 kg	
	薬剤タンク容量	26 ℓ	
	燃料タンク容量	2 ℓ	
機	送風機	形式	ターボファン
		回転数	6320min ⁻¹ (rpm)
	最大吐出量	粒 剤	20 kg / 分
	調量方式		リップシールド弁方式
エンジン	形式	空冷2サイクル単気筒	
	型式	TK53	
	排気量	53.2ml (cc)	
	混合比	25～50 (ガソリン) : 1 (オイル)	
	気化器	ダイヤフラム	
	点火方式	無接点式マグネット点火	
	点火プラグ	NGK BPMR8Y	
	始動方式	リコイルスタータ	
回転方向	右 (リコイル側から見て)		
標準付属品	保証書	1部	
	取扱説明書	1部	
	曲がり管	1個 (部品番号 130025)	
	蛇管マトメ	1本 (部品番号 107521)	
	自在管	1本 (部品番号 106721)	
	クランプマトメ大	2個 (部品番号 128189)	
	クランプマトメ小	1個 (部品番号 128188)	
	芯管バンド	1個 (部品番号 127789)	
	芯管組立	1組 (部品番号 091505)	
	新流し多口噴頭	1組 (部品番号 125552)	

肥料を散布する時の 注意事項

次の事を守らないと機械はサビて使えなくなります。

1. タンク内の肥料が**全部無くなるまで散布**します。
2. タンクが空になったことを確認してから**2～3分間シャッターを全開にしたままでエンジンを運転**します。
3. タンク内に付着している**肥料はブラシ等ですべて取り除き**、シャッターを全開にして、タンクをたたき、肥料をシャッターの下に落します。次にシャッターを閉じて、エンジンを運転し機械の中に落ちた肥料を吹き飛ばします。この操作を繰り返して**タンク内に肥料が無いことを確認**します。
4. 機械の外面に付着している肥料をよく拭き取り、シャッターレバー**軸受部に注油**し、数回シャッターレバーを上下させます。
5. シャッターを**全開にして格納**します。

製品に関するお問合せ等は、まず、ご購入の販売店にご相談ください。
または、下記の全国共通無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120-898-114

受付時間 9:00～17:00 (土、日、祝日を除く)

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記に事項をご準備ください。

- ①製品型式名、製造番号
- ②ご購入年月日
- ③販売店名

※ 消耗品や修理等サービス、部品や製品の価格のお問合せは、お買い上げの販売店にお問合せください。



株式会社 **丸山製作所**

本社／東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL.03(3252)2281 (営・代表) 〒101-0047

この取扱説明書の部品番号は 273821

P/N. 273821-02 17.03 TAP/F